

2021年3月、現代表である私が学校の授業で元の鹿児島市喜入地域をテーマにして探究活動に取り組んだことから始まった。喜入地域には無料で利用できる自習室のような勉強できる場がほとんどない。中高生が勉強場所として利用している公民館の交流スペースはテーブル数が4つと少ない。また、図書館も当時は新型コロナウイルスの影響により利用時間が1時間と制限されていた。このような状況にあることを受け、自習室に関するアンケートを令和3年3月に喜入地域唯一の中学校である喜入中学校全校生徒を対象に行った。その結果、約8割の生徒が自習室が欲しいと回答し、その需要の高さを確認した。そこで、ないのならば自分たちで自習室を作ろうと思い、令和3年3月22日に中高生中心の任意団体「喜入マナビバプロジェクトつわぶき」を設立した。設立後、まず始めたのは協賛集めだった。喜入地域のお店や病院を周り、活動趣旨を説明し、約7万円の協賛金を集めた。

それと同時に自習室



1学期期末テスト前質問できる自習室の様子

## まちむら発見①

# 大人を巻き込み創る喜び入るまち

鹿児島県鹿児島市 喜入マナビバプロジェクト つわぶき

として利用できる場所探しも行っていたが、こちらは難航した。未成年が代表の団体には貸せない。参加者がコロナに感染したときにその人や他の参加者に対する風評被害への責任は取れるのか。前例がないから貸せない。施設使用料も支払い、その場に必ず成人が1人はいるようにすると言っているにも関わらず施設を借りることができなかった。しかし、ここで立ち止まっていたはだめだと、まずは借りられる場所を探し、令和3年5月2日、4日に善行寺研修室にて第1回の無料で利用できる自習室を開設した。令和3年5月23日には、喜入駅からは遠いものの、席数が多い八幡温泉保養館会議室をお借りし、かつ英語を教えてくださいとあるボランティアの学習サポーターを招き、英検対策・自習室を開設し、以後喜入中学校の定期テスト前に学習サポーターを招き、質問できる自習室を開催していった。

令和3年10月24日には喜入中学校にて朝の天体観測会、令和4年2月23日には環境保全イベントを開催した。この間、新型コロナウイルスの感染拡大により、対面でのイベント開催ができない時期には、SNSに



特に重要なことなどは対面で会議を行いコミュニケーションを大切にする

て中高生メンバー一人一人が豆知識を投稿し、コロナ禍でも学びを止めない工夫を行ったほか、少しでも安心して参加できるよう、団体内に感染症対策委員会を設置、地元医師監修のもと、新型コロナウイルス対策マニュアルを作成した。

学習イベントを開催していく中で、一般的に言われる学習だけが学びではなく、何気ないことから学びを得られることに気づいた。そこで、学習という枠にとらわれず、様々な体験活動を提供することにした。ハーバリウムやしめ縄を作ったり、コロナ禍でお祭りが中止になっていたことを踏まえ、ミニ夏祭りを開催したり、フォトコンテストを開催したりと多種多様なことに取り組んできた。喜入地域では少子高齢化により地域行事が減少していることやイベントのニーズの変化により、家族で出かけるとなると市街地まで行かないと多世代で参加できる体験イベントはない。また、近年では体験格差も問題視されつつある。これらのことから、私たちの活動が地域の中で学びの場、体験の場の創出という役割を担うようになった。また、イベントを開催していく中で、企画・運営している私たちの学びの場にもなっていることに気づいた。当団体では、発案、ポスターの作成から依頼、当日の運営まですべて中高生が行っている。どうすれば楽しんでもらえるか、より学びを得られる工夫はできないかなど考えながら活動することで様々な力を鍛えられ、時には参加者やボランティアから学びを得ることも多い。

設立から現在まで自習室18回、質問できる自習室10回、イベントを18回開催し、参加者総数は800名を



「つわぶき祭」ではチョコバナナ作りなど体験型企画を行った



学びの祭典内のしめ縄づくりの様子

上回る。私たちが喜入地域で活動していくことで、地域は大きく変わってきている。2023年11月に開催された海辺のマルシェin喜入生見では生見校区まちづくり協議会からお声がけいただき、私たちも実行委員として参画した。最初は協議会と私たちとで意見が異なり、対立してしまうこともあったが、お互いに学びほぐし、たくさんの方にきてほしいという共通の目標に向かって議論を重ねたことで、イベントを成功させることができた。また、私たちの活動を聞き、地元企業が新規事業に関わってほしいと声をかけてくださり、中高生目線で新規事業について学び、発信したり、事業と絡めたイベントを開催したりと地域企業とも一緒に活動している。設立当初借りることができなかった施設も、2022年度には借りられるようになり、2023年8月に開催された市長と語る会で市長に私たちの活動を伝えたことで、社会教育関係団体とみなして対応して頂けるようになった。

たった一人の想いから始まったこの活動が、今では多くの中高生の学びの場、活躍の場、挑戦の場になり、多くの大人を巻き込みながら地域に変化を与え続けている。今まで大人だけで行っていたまちづくりを現在は私たち若者も含め、地域全体で行っている。お互いが持っていないスキルや経験を補い合い、価値観を共有し、刺激し合いながら地域を盛り上げている。団体名にあるつわぶきの花言葉は困難に負けない。コロナ禍に始まった当団体はこれからも困難に負けず、喜入地域のために挑戦し続け、地域と共に成長していく。

(喜入マナビプロジェクトつわぶき 代表 東琴乃)